

|          |                   |     |     |          |                             |
|----------|-------------------|-----|-----|----------|-----------------------------|
| 科目名      | 歴史総合              |     | 必履修 | 使用教材     | 現代の歴史総合 みる・読みとく・考える (山川出版社) |
| 学年<br>学級 | 1 学年<br>普通科・創造理数科 | 単位数 | 2   | 教科<br>担当 | 川島、塚原                       |

| 期 間            | 授 業 計 画  | 到達目標  |
|----------------|--|---|
| 1 学期<br>中間考査まで | 第1章 結びつく世界と日本の開国<br>18世紀の東アジアにおける社会と経済<br>貿易が結んだ世界と日本<br>産業革命<br>中国の開港と日本の開国<br>第2章 国民国家とナショナリズム<br>市民革命<br>国民国家とナショナリズム | 第1章 アジア諸国と欧米諸国の関係の変容のなかで、伝統と文化、交流について主体的に学習に取り組む。<br><br>第2章 国民国家や帝国主義の特徴、植民地とされた地域について学び、他国を尊重する態度を養う  |
| 1 学期<br>期末考査まで | 明治維新<br>日本の産業革命<br>帝国主義<br>変容する東アジアの国際秩序<br>日露戦争と東アジアの変動<br>近代化と現代的な諸課題  | 第2章 国民国家や帝国主義の特徴、植民地とされた地域について学び、他国を尊重する態度を養う   |
| 2 学期<br>中間考査まで | 第3章 総力戦と社会運動<br>3 ヴェルサイユ体制とワシントン体制<br>～第4章 経済危機と第二次世界大戦<br>3 日中戦争への道   | 第3章 第一次世界大戦後の国際協調体制の成立と限界について理解を深め、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う<br><br>第4章 第二次世界大戦の惨禍や大戦下の人々の生活を通して、生命を尊ぶ態度を養う。 |
| 2 学期<br>期末考査まで | 第4章 経済危機と第二次世界大戦<br>4 第二次世界大戦の展開<br>～第5章 冷戦と世界経済<br>2 東西両陣営と1960年代の社会  | 第5章 冷戦下の紛争地域と脱植民地化や地域連携について学び、他国を尊重し、国際社会の平和について考察できる。  |
| 学年末<br>考査まで    | 第5章 冷戦と世界経済<br>3 軍拡競争から緊張緩和へ<br>～第6章 世界秩序の変容と日本<br>10 現代と私たち   | 第6章 地域紛争が多発する現代における国際連合の役割と安全保障の問題などの事例を通して、正義と責任、および国際平和について考察できる。                                     |

学習のポイント (授業中や家庭学習の方法)

・社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを旨とする。

普通科・創造理数 歴史総合のルーブリック

| 評価の観点                         |               |      | 知識・技能  | 思考力・判断力・表現力  | 主体的に学習に取り組む態度   |
|-------------------------------|---------------|------|--|--|---|
| 立高生として育成したい素養のうち教科で重点的に育成する素養 |               |      | 知識・技能  | 論理的思考力   | 協働力・粘り強く取り組む力   |
| 評価規準                          |               |      | 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とそ<br>の中の日本を広く相互的な<br>視野から捉え、現代的な諸課<br>題の形成に関わる近現代の<br>歴史を理解するとともに、諸<br>資料から歴史に関する様々<br>な情報を適切かつ効果的に<br>調べまとめる技能を身に付<br>けている。             | 近現代の歴史の変化に関わる<br>事象の意味や意義、特色など<br>を、時期や年代、推移、比較<br>、相互の関連や現在とのつな<br>がりなどに着目して、概念な<br>どを活用して多面的・多角的<br>に考察したり、歴史に見られ<br>る課題を把握し解決を視野<br>に入れて構想したりする力や<br>、考察、構想したことを効果<br>的に説明したり、それらを基<br>に議論したりしている。                | 近現代の歴史の変化に関わる<br>諸事象について、国家及び社<br>会の形成者として、よりよい<br>社会の実現を視野に課題を<br>主体的に追究、解決しようと<br>している。   |
| A                             | 立高生として目指すべき目標 | レベル4 | 近現代の歴史の変化に関わる<br>諸事象について、世界とそ<br>の中の日本を広く相互的な<br>視野から捉え、現代的な諸課<br>題の形成に関わる近現代の<br>歴史を理解するとともに、諸<br>資料から歴史に関する様々<br>な情報を適切かつ効果的に<br>調べまとめる技能を身に付<br>け、応用することができる。 | 近現代の歴史の変化に関わる<br>事象の意味や意義、特色など<br>を、時期や年代、推移、比較<br>、相互の関連や現在とのつな<br>がりなどに着目して、概念<br>などを活用して多面的・多角<br>的に考察したり、歴史に見ら<br>れる課題を把握し解決を視<br>野に入れて構想したりする<br>力や、考察、構想したことを<br>効果的に説明したり、それら<br>を基に議論し応用できる。                 | 近現代の歴史の変化に関わる<br>諸事象について、国家及び社<br>会の形成者として、基本的な<br>姿勢を身に付け、よりよい社<br>会の実現を視野に課題を主<br>体的に追究、解決しようと<br>し、それに基づいた行動を<br>いづもとることができる。          |
| B                             | 立高生として求める標準   | レベル3 | 近現代の歴史の変化に関わる<br>諸事象について、世界とそ<br>の中の日本を広く相互的な<br>視野から捉え、現代的な諸課<br>題の形成に関わる近現代の<br>歴史を理解するとともに、諸<br>資料から歴史に関する様々<br>な情報を適切かつ効果的に<br>調べまとめる技能を身に付<br>け、活用できる。      | 近現代の歴史の変化に関わる<br>事象の意味や意義、特色など<br>を、時期や年代、推移、比較<br>、相互の関連や現在とのつな<br>がりなどに着目して、概念<br>などを活用して多面的・多角<br>的に考察したり、歴史に見ら<br>れる課題を把握し解決を視<br>野に入れて構想したりする<br>力や、考察、構想したことを<br>効果的に説明したり、それら<br>を基に議論したりしている。                | 近現代の歴史の変化に関わる<br>諸事象について、国家及び社<br>会の形成者として、基本的な<br>姿勢を身に付け、よりよい社<br>会の実現を視野に課題を主<br>体的に追究、解決しようと<br>し、それに基づいた行動をし<br>ばしばとることができる。         |
|                               |               | レベル2 | 近現代の歴史の変化に関わる<br>諸事象について、世界とそ<br>の中の日本を広く相互的な<br>視野から捉え、現代的な諸課<br>題の形成に関わる近現代の<br>歴史を理解するとともに、諸<br>資料から歴史に関する様々<br>な情報を適切かつ効果的に<br>調べまとめる技能をある程<br>度身に付けている。     | 近現代の歴史の変化に関わる<br>事象の意味や意義、特色など<br>を、時期や年代、推移、比較<br>、相互の関連や現在とのつな<br>がりなどに着目して、概念<br>などを活用して多面的・多角<br>的に考察したり、歴史に見ら<br>れる課題を把握し解決を視<br>野に入れて構想したりする<br>力や、考察、構想したことを<br>効果的に説明したり、それら<br>を基に議論したりしている<br>力を概ね身に付けている。 | 近現代の歴史の変化に関わる<br>諸事象について、国家及び社<br>会の形成者として、基本的な<br>姿勢を概ね身に付けている。<br>よりよい社会の実現を視野<br>に課題を主体的に追究、解<br>決しようとし、それに基づ<br>いた行動を時々とることが<br>できる。  |
| C                             | 立高生として初歩的段階   | レベル1 | 近現代の歴史の変化に関わる<br>諸事象について、世界とそ<br>の中の日本を広く相互的な<br>視野から捉え、現代的な諸課<br>題の形成に関わる近現代の<br>歴史を理解するとともに、諸<br>資料から歴史に関する様々<br>な情報を適切かつ効果的に<br>調べまとめる技能を理解し<br>ている。          | 近現代の歴史の変化に関わる<br>事象の意味や意義、特色など<br>を、時期や年代、推移、比較<br>、相互の関連や現在とのつな<br>がりなどに着目して、概念な<br>どを活用して多面的・多角的<br>に考察したり、歴史に見られ<br>る課題を把握し解決を視<br>野に入れて構想したりする力<br>や、考察、構想したことを<br>効果的に説明したり、それら<br>を基に議論したりしている<br>力を少し身に付けている。 | 近現代の歴史の変化に関わる<br>諸事象について、国家及び社<br>会の形成者として、基本的な<br>姿勢を身に付けようと努力し<br>、よりよい社会の実現を視<br>野に課題を主体的に追究、<br>解決しようとし、それに基づ<br>いた行動を時々とることが<br>できる。 |
| 評価方法                          |               |      | ペーパーテスト・5分間発表・歴史総合新聞・授業での討論内容  | ペーパーテスト・5分間発表・歴史総合新聞・授業での討論内容  | ペーパーテスト・5分間発表・歴史総合新聞・授業での討論内容   |
| 観点別評価                         |               |      | レベル1～4の4段階で評価し、最終的にA,B,Cで記載  | レベル1～4の4段階で評価し、最終的にA,B,Cで記載  | レベル1～4の4段階で評価し、最終的にA,B,Cで記載   |

|          |            |     |     |          |   |
|----------|------------|-----|-----|----------|---|
| 科目名      | 地理総合       |     | 必履修 | 使用教材     | 新地理総合（帝国書院）<br>新詳高等地図（帝国書院）<br>新地理資料 COMPLETE2026（帝国書院） |
| 学年<br>学級 | 1年創造理数科(H) | 単位数 | 2   | 教科<br>担当 | 松永 将一   |

| 期 間  | 授 業 計 画  | 到達目標   |
|------|--|--|
| 1 学期 | <p>第1部 地図でとらえる現代世界</p> <p>第1章 地理情報とシステム<br/>地球上の位置と時差／地図の役割と種類</p> <p>第2章 結び付きを深める現代世界<br/>現代世界の国家と領域／グローバル化する世界</p> <p>第2部 国際理解と国際協力</p> <p>第1章 生活文化の多様性と国際理解<br/>生活文化の多様性／世界の地形と人々の生活／世界の気候と人々の生活／世界の言語・宗教と人々の生活</p> | <p>第1部</p> <p>第1章：地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解するとともに、情報の収集、読図、まとめる技能を身に付ける。</p> <p>第2章：世界的視野から見た日本の位置、国内や国家間の結び付きなどを多面的・多角的に考察する。</p> <p>第2部</p> <p>第1章：世界の人々の生活文化について、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察する。</p> |
| 2 学期 | <p>歴史的背景と人々の生活／世界の産業と人々の生活</p> <p>第2章 地球的課題と国際協力<br/>複雑に絡み合う地球的課題<br/>地球環境問題／資源・エネルギー問題<br/>／人口問題／食料問題／都市・居住問題</p>   | <p>第2章：世界各地で見られる環境、資源・エネルギー、人口、食料、都市問題などの地球的課題について、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察するとともに、そこで見られる課題を主体的に解決しようとする態度を養う。</p>  |
| 3 学期 | <p>第3部 持続可能な地域づくりと私たち</p> <p>第1章 自然環境と防災<br/>日本の自然環境／地震・津波と防災／火山災害と防災／気象災害と防災／自然災害への備え</p> <p>第2章 生活圏の調査と地域の展望<br/>生活圏の調査と地域の展望</p>  | <p>第3部</p> <p>第1章：自然環境と防災について、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、そこで見られる課題を主体的に解決しようとする態度を養う。</p> <p>第2章：生活圏の調査と地域の展望について、そこで見られる課題を主体的に解決しようとする態度を養う。</p>  |

|  |
|--|
| <p>学習のポイント（授業中や家庭学習の方法）</p> <p>・授業に集中して取り組み、積極的な発言を求める。現代世界の出来事を地理的視点から自らの問題として考える態度を養う。年4回の定期テストの他に、小テスト等を適宜行う。地理的課題についての調査・グループワーク・討論等を行う。</p> |
|--|

| ルーブリック評価                      |  |                               |   |  |
|-------------------------------|--|-------------------------------|---|--|
| 評価の観点                         | 知識・技能  |                               | 思考力・判断力・表現力   | 主体的に学習に取り組む態度  |
| 立高生として育成したい素養のうち教科で重点的に育成する素養 | 知識・技能  |                               | 論理的思考力  | 協働力・粘り強く取り組む力  |
| 評価規準                          | <p>地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解しているとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。</p> |                               | <p>地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。</p>     | <p>地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとしている。</p>   |
| A                             | 立高生として目指す目標  | レベル4                          | <p>地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論し応用することができる。</p> | <p>地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、基本的な姿勢を身に付けている。そして、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとし、それに基づいた行動をいつもとることができる。</p>       |
| B                             | 立高生として求める標準  | レベル3                          | <p>地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論することができる。</p>    | <p>地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、基本的な姿勢を身に付けている。そして、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとし、それに基づいた行動をしばしばとることができる。</p>      |
|                               |  | レベル2                          | <p>地理に関わる事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解しているとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能をある程度身に付けている。</p>                               | <p>地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、基本的な姿勢を概ね身に付けている。そして、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとし、それに基づいた行動を時々とることができる。</p>      |
| C                             | 立高生として初歩的段階  | レベル1                          | <p>地理に関わる事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解しているとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を理解している。</p>                                    | <p>地理に関わる事象について、国家及び社会の形成者として、基本的な姿勢を身に付けようとする努力している。そして、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとし、それに基づいた行動を時々とることができる。</p> |
| 評価方法                          |  | ・ペーパーテスト・ワークシート・行動観察          | ・ペーパーテスト・ワークシート・行動観察  | ・ペーパーテスト・ワークシート・行動観察   |
| 観点別評価                         |  | レベル1～4の4段階で評価し、最終的にA, B, Cで記載 | レベル1～4の4段階で評価し、最終的にA, B, Cで記載   | レベル1～4の4段階で評価し、最終的にA, B, Cで記載  |

|          |        |     |                       |          |                           |
|----------|--------|-----|-----------------------|----------|---------------------------|
| 科目名      | 公共     |     | 必履修<br>学校必履修<br>選択必履修 | 使用<br>教材 | 公共（実教出版）<br>最新図説 公共（浜島書店） |
| 学年<br>学級 | 2年全クラス | 単位数 | 2                     | 教科<br>担当 | 山田 駿                      |

| 期 間         | 授 業 計 画  | 到達目標  |
|-------------|--|---|
| 1<br>学<br>期 | 中間<br>考<br>査<br>ま<br>で<br><br>第1部 公共の扉<br>倫理分野<br>第1章 社会を作る私たち<br>第2章 人間としてよく生きる<br>第3章 他者とともに生きる<br>第4章 民主社会の倫理           | ・人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いの様々な立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であること、伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることなどを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存在であることについて理解させる。  |
|             | 期<br>末<br>考<br>査<br>ま<br>で<br><br>政治分野<br>第5章 民主国家における基本原理<br>第2部 よりよい社会の形成に参加する私たち<br>第1章 日本国憲法の基本的性格<br>第2章 日本の政治機構と政治参加 | ・各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることについて理解させる。<br>・個人の尊重、民主主義、法の支配など、公共的な空間における基本的原理について理解させる。  |
| 2<br>学<br>期 | 中<br>間<br>考<br>査<br>ま<br>で<br><br>経済分野<br>第1章 現代の経済社会<br>第2章 日本経済の特質と国民生活  | ・雇用と労働問題、財政及び租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、市場経済の機能と限界、金融の働きなどに関する現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解させる。 |
|             | 期<br>末<br>考<br>査<br>ま<br>で<br><br>国際分野<br>第1章 国際政治の動向と課題<br>第2章 国際経済の動向と課題   | ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現させる。  |
| 3<br>学<br>期 | 学<br>年<br>末<br>考<br>査<br>ま<br>で<br><br>第3部 持続可能な社会づくりの主体となる<br>私たち   | この科目のまとめとして位置付け、社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、第1部で身に付けた選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理などを活用するとともに、第1部及び第2部で扱った課題などへの関心を一層高める  |

学習のポイント（授業中や家庭学習の方法）

毎時間他者との意見共有と振り返りを行い、知識の定着のみならず、思考力や表現力を高めることを目指します。また、政治分野、経済分野においては中学校までの既習事項も踏まえながら、授業内での議論を行います。民主社会の形成者として積極的に社会に参画する態度を養っていきましょう。特に授業内では自らの意見を述べるだけでなく、多くの人の意見を聞く機会もあると思います。他者の意見も尊重し、考える力を養っていきましょう。

| ルーブリック評価                      |                                |   |   |
|-------------------------------|--------------------------------|---|---|
| 評価の観点                         | 知識・技能                          | 思考力・判断力・表現力   | 主体的に学習に取り組む態度   |
| 立高生として育成したい素養のうち教科で重点的に育成する素養 | 知識・技能                          | 論理的思考力<br>批判的に事象を読み解く力  | 社会に参画しようとする力<br>粘り強く学習に取り組む力                            |
| 評価規準                          | 公共で用いられる語句の意味や定義を理解する力を身に付けている | 現代社会の諸課題の解決に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成をする力を身に付けている。<br>現代社会の諸問題の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法について考察できている   | 民主社会を構成する市民として、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度を身に付けている。     |
| A                             | 立高生として目指すべき目標<br>4             | 公共で用いられる語句の意味や定義を理解する力を十分に身に付けている<br>現代社会の諸課題の解決に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成をする力を十分に身に付けている。<br>現代社会の諸問題の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法について十分に考察できている    | 民主社会を構成する市民として、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度を十分に身に付けている。  |
| B                             | 立高生として求める標準<br>3               | 公共で用いられる語句の意味や定義を理解する力をほぼ身に付けている<br>現代社会の諸課題の解決に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成をする力をほぼ身に付けている。<br>現代社会の諸問題の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法についておおよそ考察できている     | 民主社会を構成する市民として、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度をほぼ身に付けている。   |
|                               | 2                              | 公共で用いられる語句の意味や定義を理解する力をある程度身に付けている<br>現代社会の諸課題の解決に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成をする力をある程度身に付けている。<br>現代社会の諸問題の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法についてある程度考察できている | 民主社会を構成する市民として、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度をある程度身に付けている。 |
| C                             | 立高生として初歩的段階<br>1               | 公共で用いられる語句の意味や定義を理解する力を身に付けようとしている。<br>現代社会の諸課題の解決に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成しようとしている。<br>現代社会の諸問題の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法について考察しようとしている         | 民主社会を構成する市民として、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度を身に付けようとしている  |
| 評価方法                          | 定期テスト・振り返り学習                   | 定期テスト<br>共有シート 振り返り<br>中間課題 レポート  | 振り返り ワークシート<br>中間課題                                     |
| 観点別評価                         | 4段階で評価し、最終的にA, B, Cで記載する       | 4段階で評価し、最終的にA, B, Cで記載する  | 4段階で評価し、最終的にA, B, Cで記載する                                |